2020年にサステナブルな社会を構築するために2010年時点で達成しておくべき社会状況

■労働環境

- 家庭や地域社会での生活時間を最大限尊重した働き方が一般的になると共に、これを支える国と企業による労働環境の整備が行われている。
- 多様な働き方と働く機会が増えている（個人のライフスタイルやライフステージに合わせた働き方ができるとともに、これを支える情報技術の活用が進んでいる）。
- 業界内でのワークシェアとセクター間(特に行政と企業とNGOの間)でのワークシェアリング（※）が活発に行われている。
- 仕事・労働の捉え方が変わり、「お金を得るための仕事」とともに「社会参画としての仕事」にも従事することが社会的に認められている（例：社会の公共部分を担う仕事や食糧生産　等）。

（※）ワークシェアリング：　雇用機会・労働時間・賃金という3つの要素の適切な配分を通じて、一定の雇用量をより多くの労働者で分かち合うこと。

未来に向けた人づくり（戦略7）

- ビジョン策定、シナリオプランニング手法のプロセスを通して、最も重要なのはこうした考え方を身につけた上で、その考え方を広めるイニシアチブをもつ「人材（財）の育成」
- 鳥瞰的に全体を見ることができ、いかなる変化にも対応できるようなフレキシビリティをもった人材（財）をいかに育てていくかが今後の鍵となります。

→「環境を感じ、考え、行動する人づくり」

環境教育AAAプラン実現に向けて

- 国民レベルのエコマインドの醸成には、市民ひとり一人の自覚と気付きのプロセスが必須です。
- サステナビリティの重要性に気付き、いかに今の経済至上社会からのビジネス転換を図るのかがポイント。
- 市民側の責任として、CSRや環境経営を進める企業の製品やサービスを積極的に利用し、株式投資などでも社会的責任投資(SRI)を応援する環境整備が必要となります。
- 企業内での(社員の)エコマインドの育成も推進

(例:松下電器グループの「地球を愛する市民活動」など)

環境教育AAAプラン実現に向けて

●エコマインドを5段階でレベル分けすると・・・

レベル5・・・エコマインドの高い層(目覚めた層)	5%前後
レベル4・・・環境意識が目覚め始めた層(LOHAS)	15%前後
レベル3・・・自分に関わる安全・安心にこだわる層	20～30%
レベル2・・・法令などのルールは守る層	30～40%
レベル1・・・無関心層	10～20%

※それぞれのレベルを一段階ずつあげていく戦略が必要。

●アイデアレベルの戦略案として

レベル5・・・オピニオンリーダー的存在。ロールモデルとして、その人のエコライフを世界に向けて発信(1000人ネットワークなどを構築)。現在、環境ビジネスウィメンもエコビジネスのロールモデルの100人ネットワークを構築中。

レベル4・・・環境先進企業とともに、社員とその家族のエコライフを推進(環境家計簿運動やエコライフの登録者数100万人を目指す活動を展開。エコプレミアム商品を一緒に開発するなど、企業の技術担当者も巻き込む活動を推進。

レベル3・・・エコ商品を買うことによるインセンティブをつける(補助金制度の充実)や個人で気軽に参加できるCO_2ニュートラルの仕組みなどの普及。

レベル2・・・省エネすることが得する政策、法令などのルールをより強化する(飴と鞭政策)

日本各地でのモデル都市づくり

- 2008年7月の洞爺湖サミットで具体的なアクションが日本に問われてくるのは必須です。
- 世界に向けたエコ宣言としてサステナブルなモデル都市構想を日本発で発表していきます。
- 事前（5月）に神戸で行われる環境大臣会議の開催のタイミングにあわせ、子供たちが未来社会を描き、そのビジョンに向けて目標をコミットする「世界子供環境サミット2050」の開催を環境ビジネスウィメンで計画中です。

神戸におけるモデル都市づくり

まずは、六甲アイランドがモデル都市となり、「2050年までにCO2を9割、2025年までに半減するエコ都市宣言」を行います。

環境だけでなく、次世代も幸せに暮らすことができるモデル都市としてのコミットメントとそれに向けたアクションプランも策定し、世界に向けてアピールしていきます。

未来にどんな街に暮らしたいかのアイデアは、住民から募集し、ともに未来ビジョンを描いていきます。
未来を担う子供たち（10～17歳）が中心となり、大人はバックアップ部隊で応援します。